

令和7年度 富島高等学校（定時制） 学校評価

教育目標 宮崎県教育基本方針および宮崎県人権教育方針に基づき、己の個性を伸ばす自立の心を育て、信頼と協調により友愛を深め、心豊かな生活をめざして創造力を伸ばし、知・徳・体の調和のとれた人材を育成する。		[学校関係者評価のポイント] ・自己評価の項目や指標は適切に設定されているか。 ・自己評価の結果は、指標等をもとにした妥当なものであるか。 ・自己評価の結果を踏まえた成果と改善策は適切であるか。				
本年度の重点目標 己の個性を伸ばす自立の心を育て、信頼と協調により友愛を深め、こころ豊かな生活を目指して創造力を伸ばし、知・徳・体の調和のとれた人材を育成する。 ◆スローガン 「全力 TOMIKO!」～地域社会と連携し、新時代を形成するために必要な学校教育の実践～ 「生徒が通いたい学校」 生徒が夢を持ち、安心して過ごすことができる学校 「保護者が通わせたい学校」 保護者が信頼と期待をしてくれる学校 「職員が働きたい学校」 職員がやりがいと成就感を持てる学校 「地域に愛される学校」 基礎・基本を身につけ、地域貢献ができる学校 ◆志を持つ生徒の育成のために (1)「頭」を鍛え、伸ばす(個に応じた学力向上と進路実現) (2)「心」を鍛え、育てる(心の教育の推進と充実) (3)「体」を鍛え、伸ばす(体の育成と食育・健康教育の推進)						
重点目標	評価項目	具体的方策又は具体的指標	自己評価	成果及び改善策	学校関係者評価	評価・具体的意見
①「頭」を鍛え、伸ばす	1授業力の向上	① 個の特性や能力に応じた指導を工夫する。 ② 意欲や態度を含めた多面的な評価を推進する。 ③ 授業公開週間を計画する。	B	商業科の授業を中心に、能力に応じたクラス分け、複数の教員で指導するT.Tを行っている。また、10月の中旬に授業公開を行い、昨年度よりも多くの参加があった。	B	○授業改善や教員の意識向上につながる取組となっていると思います。 ○公開授業を行うことによって、開かれた学校というイメージが地域や保護者にできていると思います。上記も含め、能力に応じた学習指導の内容に関する情報発信を積極的に行うといいからと思います。 ○生徒の能力に応じた指導がなされている。
	2ビジネス教育の推進	① 定期的に一般職及びパート求人を提供し、就業体験を促す。 ② 実務代替を推進し、就業先との提携を図ることで、生徒の勤務状況を把握し、必要なアドバイスを行う。	B	職業観を身に付けさせ、将来の人生設計ができるような機会を多く作った。生徒の勤務先を訪問して連携を行った。情報共有が行われ、継続して行うことの重要性を感じている。	B	○在籍者数が多い中、生徒一人ひとりに寄り添いながら、将来の展望を示す取組が行われている。 ○就業体験を通して、高校卒業という意義を認識させる。就業体験は学習意欲の継続にも良い。 ○勤務先との連携を行うことで、仕事と学習のバランスを考えることや相乗効果を得ることができると考えます。 ○生徒の勤務先訪問で連携しながら情報共有していることが良い。
	3資格取得の推進	① 個に応じた資格取得のガイダンスを行う。 ② キャリアパスポートを用いて、生徒自身が自分の資格取得状況を意識できるようにする。 ③ 資格取得の年間計画を立て積極的に受検するように促す。	B	始業前、放課後を利用して検定の個別指導を行った。資格取得の推進については、概ねできている。	B	○定時制は個々に応じた指導ができる強みがあり、入学希望者へもっとその魅力が伝わるといいなと感じた。 ○年間計画をしっかりと立て受験を促すことを引き続き行って欲しい。
	4キャリア教育の推進	① 進路ガイダンスおよび社会人講話等を計画的に実施し、進路意識の高揚を図る。 ② キャリアパスポートを利用し、振り返りの機会を定期的に与えることで、キャリアの蓄積を意識させ形成を促す。	B	年間を通して進路ガイダンスや講話が行われ、生徒のニーズに合った進路指導が実践された。公務員講座は全日制と連携して取り組んでいる。	B	○全日制と積極的に連携し、定時制生徒に刺激が加わることを期待します。 ○在学中に公務員講座を受講できるのは良いと思う。生徒のニーズに合った進路指導とは？

	5 ICT教育の推進	<p>① ICTを用いた授業改善を積極的に行う。</p> <p>② ICT活用のための職員研修、情報の共有を積極的に行う。</p>	B	<p>①に関しては、常時活用率が75%に達しており、ICT活用の一般化と定着が進んでおり、現場レベルで実効性を持って進んでいる。ICTを導入すべき場面(例:教材提示、学習履歴の記録、フィードバック)を明確にしたガイドラインを作成し、活用を促す。</p> <p>②に関しては、実施率が62%であり、一応の組織的な推進体制が機能している。これからも多様な研修形式の導入環境を作り、実施率100%を目指す。</p>	B	<p>○ICT機器の活用が定着してきている。ITCが効果を発揮する部分をメリハリつけて導入していただくのが難しい。また、生徒・先生のICTスキル格差が生まれないようフォローが必要かと思えます。</p> <p>○①どのように授業改善されたのかがわかりにくい。</p> <p>○②実施率が62%であるが、どんどん進化していく分野であると思うので遅れていないかチェックが必要ではないか。</p>
②「心」を鍛え、育てる	1 基本的な生活習慣の確立	<p>① 時間厳守の徹底・挨拶の励行。</p> <p>② 正しい言葉遣いを身につける。</p> <p>③ 規範意識を確立させる。</p> <p>④ 美化意識の高い生徒を育成する。</p>	C	<p>①②担任を中心とした日常的な「声かけ」指導や行事等を通じた指導に努めている。特に行事や式典でのドレスコードについては、意識改革に着手している。今後は他の校務分掌とも連携して取り組みを強化したい。</p> <p>③学校や社会のルールを守れず、今年度に入って問題行動が7件発生した。内容によって、説諭や謹慎指導をおこなった。改善策として、規範意識を高めることに特化した集会の実施や家庭との連携を深めるために夏休み期間中に家庭訪問を実施することを検討したい。</p> <p>④ゴミをロッカーに放置する生徒や机の中にゴミを捨てる生徒がいる。生徒総会でもゴミ処理の件を議題にして、自発的な意識改革を促した。少しずつ改善は見られるが、今後は定期的な清掃を確立して美化意識を向上させたい。</p>	B	<p>○社会のルールを守ることは今後来るべき社会人としての最低限のルールであるので、ここは妥協なく対応をお願いしたい。家庭訪問は効果的な対策だと考えます。また、コミュニケーションの基本である挨拶や正しい言葉遣いを学ぶ機会がさらに増えるといいなと思います。</p> <p>○学校や社会のルールを守れないことによる問題行動が発生していることから、規範意識の定着については引き続き課題があると考えます。</p> <p>○ごみ処理に関する意識の課題が見られるものの、先生方も改善に向けた指導取組みに期待します。</p> <p>○自己評価の成果は指標等をもとにした率直なものであると思います。</p> <p>○先生方の取り組みとしてはA 生徒の行動面としてはBと考える。</p> <p>○エチケット・マナーの指導が必要かと思われる。食事のマナー、相手を不愉快にさせない話し方、さらにリフレーミングも必要と考える。</p> <p>○問題意識を定着させて欲しい。具体的な対応策を今一度練り直して欲しい。</p>
	2 持続可能な社会の形成に参画できる教育の推進	<p>① 学校内の様々な活動を通して、社会の変化に主体的にかつ柔軟に対応できる生徒の育成を図る。</p> <p>② 定期的に研修を行う。</p>	B	<p>年間計画通りに学校行事や特別活動を行うことができています。研修についてはICT関連の研修を2回行ったが、後期に向けて、さらに研修を計画したい。</p>	B	<p>○前期で2回という具体的な数字がありわかりやすい。</p>
	3 命を大切にする教育の推進	<p>① 平常指導による危機回避の育成を図る(特に登下校時)。</p> <p>② 避難訓練(年2回)、交通安全教室の実施し、安全教育を徹底する。</p> <p>③ 「命を大切にする週間」期間中に講演会を実施する。</p> <p>④ 救急法講習会、薬物乱用防止教室を実施する。</p>	A	<p>①通学調査を実施して、通学手段の把握に努めている。定時制の特徴として下校時間が遅くなるので速やかな下校を促したい。</p> <p>②いずれも予定通り実施した。12月の避難訓練では、訓練後に高校生防災・安全研修へ参加した生徒による報告会を初めて実施した。</p> <p>③6/26に救急看護師の児玉りか様を講師に招いて講話「応急手当てで命をつなぐ」を実施した。</p> <p>④いずれも予定通り実施した。</p> <p>②③④については、担当職員が講師との綿密な事前打ち合わせを実施したこともあり、本校生徒の実情にあわせた内容で充実していた。今後も継続して企画運営に尽力したい。</p>	A	<p>○外部講師を招いて、多くの情報を生徒に提供していただくと、先生方から受ける授業の情報とはまた違う気づきや学びを受け取ってくれると思います。</p> <p>○通学指導や各種安全防災教育が計画どおり実施され、生徒の実情に即した内容となっている点は評価できると考えます。</p> <p>○命を守るために必要な情報はできる限り生徒に与えて欲しい。特に今は薬物の問題。大切な教育だと思う。</p> <p>○生徒による報告会を初めて実施されたことも良いことだと思います。</p>
	4 スクールリーダーの育成	<p>① 生徒会活動で、主体性やリーダーシップを育成し、学校生活の充実をはかる。</p> <p>② 各種委員会で、生徒の主体的な取り組みを推進する。</p> <p>③ 部活動において、生徒による自主的な運営を行う。</p>	B	<p>生徒会行事を執行部中心で運営させることで集団を動かす力を育てることができた。</p> <p>生徒に役割を与えて行事や部活動運営を行わせる機会を通して、責任感が強くなった。</p>	B	<p>○生徒会や部活動などを通して責任感やリーダーとしての資質が植え付けられることを期待しています。</p> <p>○生徒主体で良いと思う。</p>

③「体」を鍛え、伸ばす	5 特別支援教育体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ① 職員研修会・月 1 回のサポート委員会での情報共有をはかり、生徒理解に努める。 ② ハートサポーターによる個別面談を実施する。 ③ 関係機関と連携し、生徒・保護者のサポートを行う。 ④ 臨床心理士 (SC) による年間20回の来校、スクールソーシャルワーカー (SSW) の週2回の来校、生徒、保護者、職員が安心して学べる環境を作っていく。 ⑤ 個々の生徒に対応できるような研修を計画的に行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①サポート委員会において、今年度から事前に関係者の打合せを行いテーマ設定をしてから開催することで、会の目的が明確化した。 ②予定通り実施できたが、更なる充実、面談の増加が求められている。 ③関係機関の協力もあり連携が強化された。 ④SC, SSWとも年間計画プラスアルファの協力をいただいている。 ⑤ケース会議が必要に応じて開催された。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○サポート委員会や関係機関との連携により、生徒理解と支援体制の充実が図られています。 ○委員会や会議を通して、生徒たちの情報共有を密にさせていただき、SC, SSWとも連携を取りながら、特別支援教育の充実を図っていただきたいと思います。 ○学校カフェが生徒の居場所作りとして、またスタッフと先生方の情報交換、生徒と先生方の授業前連絡としても活用されている。 ○SCによる年間 20 回来校とあるが内容はどのようなものであったか。成果はあったか。
	6 豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ① 学校行事を通して自他の生命を尊重する態度を育成する。 ② 体験活動の取組みを推進する (花壇作り、陶芸教室、体験発表等)。 	B	花壇作り、陶芸教室等の学校行事を通して、クラス内での協力や、陶芸作品作りに真剣に取り組む姿が見られた。	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティアで「こども食堂」に協力してくれる生徒が増えている。人の役に立つことで自分の存在感を認識することができた。 ○①についての教育はどんなものがあったのか。 ○学校でも様々な体験活動ができることが素晴らしい。生徒の考え方の幅が広がると思います。
	1 健康教育・安全管理の充実	<ul style="list-style-type: none"> ① 生徒全員の健康診断を実施し、健康診断結果の事後指導を行う。 ② 教育相談・保健相談活動の充実を図る。 ③ ハートサポーター、SC、SSWによる個別教育相談、養護教諭による健康に関する面談を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①内科検診未受診者を引率し、確実に受診に繋げた。 ②「心の面談週間」を年3回、個別の健康面談は今年7名実施した。 ③いずれの面談も積極的に関わり実施できた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○適切な運営がなされている。 ○健康管理やこれからの進路など、悩み多い生徒たちをサポートする体制が出来つつあると感じています。さらなる充実を望みます。
	2 個性の伸長	<ul style="list-style-type: none"> ① 部活動や特別活動を通して、生徒一人一人の個性の伸長に努める。 ② ホームルーム活動や特別活動時に生徒の得意とする分野を生かした役割分担を行う。 ③ 部活動において、生徒による自主的な運営を行わせ、リーダー力を伸長させる。 	C	職員協力のもと、計画的な運営ができた。しかし、現状の課題として、主役であるべき部活動生や生徒会役員が安易な自己都合で欠席することも多々あり、職員の負担が大きくなっている。今後、目標とする個性の伸長やリーダー育成を達成するには、これらの活動の在り方や意義を職員間で議論して取り組む必要があると考える。	C	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の主体性や責任感が十分に発揮されているとは言い難く、今後は、活動の意義を生徒・先生方の間で共有し、生徒が主体的に関わる体制づくりを期待したい。 ○様々な行事やイベントを通して、多くの生徒がリーダーシップを学ぶ機会が出来ることが理想かと思います。参加率向上に対し工夫していただき、生徒に多くの機械が与えられることを期待しています。 ○職員間で議論するのはどのようにして出席に転じさせるかではないか。職員間も大切であるが、職員と生徒の対話も必要ではないか。
3 生涯にわたる健康の保持増進のための教育	<ul style="list-style-type: none"> ① 保健体育の授業、部活動・特別活動、健康教室を通して生涯にわたる心身の健康保持について意識を高めるとともに、生徒の体力向上に努める。 	B	体育教諭、養護教諭、教育相談担当を中心に、生徒の個性や特性に十分配慮している。また、養護教諭から定期的に「保健だより」を配布して、健康管理に関して啓発している。体育的な活動を好む生徒が多いこともあり、概ね目標は達成していると考えます。	B	健康管理についてしっかりと啓発している。健康管理面で保健だよりの配布は、情報共有のツールとして有益だと考えます。	

※ A：十分達成 B：概ね達成 C：検討の余地あり D：不十分